なぜこう訳されているのか（3）
――村上春樹を英語で読む（2－3）――

Haruki Murakami in English 2-3

塩　濵　久　雄

キーワード：英語、日本語、翻訳

要　旨

日本語の「それをする」にあたる英語には、do so, do that, do it があるが、その使い分けについては明確な基準は示されてこなかった。

本稿では、雑誌『英語教育』の「クエスチョンボックス」に寄せられた質問とそれに対する回答をきっかけとして、筆者が継続して行なっている「村上春樹を英語で読む」という研究の観点から、上記の英語表現の使い分けについて検討した。

また、「～と一緒に」と英語の with について、日本語と英語の「能動態と受動態」の使い分けについても検討した。

序

本稿は、塩濵久雄「なぜこう訳されているのか（2）」(2013）の続編である。

本稿で引用される例は、一部を除き、村上春樹の作品の英訳であるが、引用元が示されている場合以外は、『1Q84』からのものである。これらの例は、筆者の「村上春樹を英語で読む」という研究の一環として蒐集されたもので、この研究は、英語環境で生まれ育って後に外国語として日本語を習得した人が、どのように日本語を英訳しているかを調査し、日本語と英語の違いに焦点を当てようというものである。簡単に言えば、「英語頭の人はどう日本語を読んでいるのだろう」ということである。

もちろん、翻訳者が、日本語ネイティブ（ネイティブにも差があろうが）と同じように日本語を読んでいるという保証はないので、英訳を見て、「翻訳者がどのように日本語を読んでいるのだろう」と考えるわけで、そのあたりはブラックボックスになるわけであるが、なんらかの傾向は見えてくるのではないかと考えている。

第一章　「そうする」と do so, do that, do it, do this

【0】はじめに

村上春樹『1Q84』に次のような箇所がある。下はその英訳である。

(1)　ある人物を殺害しなくてはならないのなら、そしてそのための正しい理由があるのなら、私は全力を尽くしてそれにあたる。

If I have to kill a person and have a proper reason for doing so, I will do that with all my strength.

「そのための」が for doing so と訳され、「それにあたる」が do that と訳されている。原文の「その」や「それ」が受けているのはともに「ある人物を殺害する」のように思える。そして英訳においても、do so や do that が指しているのはともに kill a person であると思われる。しかし、英訳では前者が so、後者が that と目的語が異なっている。

本稿の目的は、この例を起点として、「代動詞 do の目的語（so を代名詞と考える）」の使い分けについて考察し、できるだけそれを明らかにすることにある。

【1】Question Box に寄せられた質問とその回答について

『月刊英語教育』（大修館）に Question Box（以下 QB）という質問投稿欄があり、その2014年４月号に次のような質問が挙がっていて、まず次例(a)が引用されている。

(a)　We cannot confirm who was the first European to drink tea. However Marco Polo may have been the first to do so.

質問者の勤める学校の ALT は、最後の do so は do it でも良い、と言ったそうで、質問者はそうであれば、その理由を知りたい、と考え QB に投稿したということである。

回答者はまず、「代動詞の目的語に so, it, that のいずれを使っても OK という場合は多々あります」と述べ、「でも、いずれでも OK というのは、いずれでも同じということではありません」と続け、その違いを説明している。

まず、「日本語に置き換えてしまうのは危険ですが」と注付きで、so, it, that を用いた場合の和訳を、

(A)　do so「そういうふうにする」「そうする」

(B)　do it「それをする」「そのことをする」

(C)　do that「そういうことをする」「そんなことをする」

と示している。

そして、次に質問者の挙げた他の例(b)(c)について検討を加えていく。

(b)　She rode a camel: she had never done so.

この done so は上と同じ ALT によると done that の方が良いということであったそうである。これに対して回答者は、done that を用いて「ラクダに乗るという珍しい行為を目立たせたかった」のでは、と解説している（【３】（Ｉ）参照）。

また、回答者が、同僚の英語母国語話者二人にこの例文を見せたところ、done so/that/it のどれでも OK で、そのうちの一人のイギリス人女性は、「自分なら it を選ぶ」と言ったそうである。つまり、「いずれでも同じ」ではないが、「いずれも可能」ということである。

(c)　I haven't got time to get the tickets. Who's going to do it?

この do it は質問者の学校の ALT によると do so にはできないということであったそうである。これについて回答者はまず、次例(d)を挙げて検討を始める。

(d)　I promised to get the tickets, and I will do so/it as soon as possible.

(c)も(d)も出典は *Practical English Usage*（以下 *PEU*）で(d)の場合 so/it とあり、that が挙がっていないのであるが、回答者は「do that でちっとも構わない」と答えている。つまり、この場合も「いずれでも同じ」ではないが、「いずれも可能」ということである。

そして、質問者の挙げた(c)に戻るのであるが、この場合 do so が不可なのは、(d)と違って(c)は二つの文のあいだで動作主が変わっているからである、と、回答者は参考文献（*PEU*、『アルファ英文法』）をもとに答えている。つまり、「行為の動作主が変わってしまうとき do so は使えないのです」と回答者は書いているのである。

これは、逆に言えば、do so は動作主が同じ場合に用いられる、ということになりそうであるが、回答者自身がこの説明のすぐあとで「もう少し話を続けます」として実際にはそうではないことを説明する。そしてその中で Quirk *et al* からの次の(e)を挙げている。

(e)　Martin is painting his house. I'm told this is merely because his neighbor did so last year.

この場合、「did it も使えるけれど did so のほうが好まれる。ここで did it とすると、it がマーティンの家のペンキ塗りをすることを指すようにも聞こえてしまう」と同書にあるとのことである。つまり、(e)の場合は「動作主は異なっているけれど、did so のほうが好まれる」ということである。これは、先の例(c)の do it を do so に変えることができないのは何故か、という質問者の疑問に対する回答「行為の動作主が変わってしまうとき do so は使えないのです」と矛盾

する見解である。

このことを踏まえて回答者は、「期待に応える do so」と「同じことをする do so」という区別を提案する。

「期待に応える do so」に関して回答者は「do so が使われる最も典型的な例は、ある人が自分の約束を守って、あるいは人からの求めに応じて、ある特定の行為をするという場面でしょう」と説明し、辞書からの次の二例(f)(g)を挙げ、この場合には、当然「同一動作主」でなければならない、とする。

(f)　They asked me to call them and I did so.-*OALD*

(g)　The troops will not advance until ordered to do so.-*LDCE*

それに対して、例(e)は、「異なる条件下で異なる動作主によって行われうる同種の行為」で「同じことをする do so」になる、ということである。つまり、逆に言えば「同じことをする do so」の場合は、動作主が異なっていてもいい、ということになる。

すると、例(c)の場合、まず主語が異なっているので、do it は「同じことをする do so」になる可能性はあるが、「期待に応える do so」にはならない、ということになる。そこで（回答者はこう言っているわけではないが）、かの ALT は Who's going to do it? を「期待に応える」文であると捉えていることになる。「（自分の期待に応えて）誰かやってくれないかな？」ととっているのではないだろうか。すると、動作主が異なるこの例において、「期待に応える」文であれば、do so にすることはできない、ということになる。

QB ではこの後、さらに英米差について述べられているが、ここでは触れない。

そして、回答者は、最終的には（「最後に」ではないが）、質問者の疑問に対して「完全に答えられる人なんてどこにもいないでしょう」「生徒さんにも、こういう細かいことは気にしなくていいよと安心させてあげてください」と述べている。

筆者ももちろん完全な説明ができるとは考えていないし、一つの事象だけを引いて、たとえば「この場合は that」などと言えるとも考えていない。複合的で曖昧な説明になる場合もあるが、少しでもこの問題をわかりやすくできればと考えている。

ただし、以下の考察は、「ある場合にはこうなっている」ということを示すのが目的で、「こうでなくてはならない」という主張をしているのではない、ということを確認しておきたい。

【2】一つの動作のみを単純に繰り返す場合は do so

【0】の例(1)の「そのための」が for doing so と訳されているが、これは kill a person の繰り返しである。また、QB からの最初の例(a)　Marco Polo may have been the first to do so の do so も drink tea の繰り返しである。つまり、一つの動詞句の繰り返しは do so になると言える。ただ

し、これらの場合の so が it と交換可能ではない、と言っているのではない。（do it に関しては【6】参照）

以下は『1Q84』からの類例である。該当部分のみ英訳を付す場合がある。例文の下のイタリック体の部分は筆者による追記である（後の項でも同様）。

(2) 金網の扉のついた入口があったが、チェーンが幾重にも巻き付けられ、大きな南京錠がかかっていた。高い扉で、てっぺんには有刺鉄線までめぐらされている。とても乗り越えられそうにはない。もし乗り越えられたとしても、服はずたずたになってしまう。

There was no way she could climb over it. Even if she managed to do so, her suit would be torn to shreds.

原文では「乗り越える」が繰り返されているが、英訳では直前の climb over を受けて do so が用いられている。

(3) 彼はもう革命の可能性やロマンスを本心から信じてはいなかった。しかし、かといってそれを全否定することもできなかった。革命を全否定することは、彼がこれまでに送ってきた歳月を全否定することであり、みんなの前で自らの誤りを認めることだった。

Neither, however, could he completely disavow it. To do so would mean disavowing his life and confessing his mistakes for all to see.

原文では「革命を全否定する」が繰り返されているが、英訳では直前の disavow it を受けて do so が用いられている。

(4) 天吾と少女はそのあととくに口をきかなかった。口をきく必要もなかったし、そんな機会もなかったからだ。

But they never spoke again after that. There was no need—or opportunity—to do so.

原文では「口をきく」が繰り返されているが、英訳では直前の spoke を受けて do so が用いられている。

(5) あゆみは小柄でにこやかで、人見知りせず、話がうまく、心さえ決めてしまえばたいていのことにポジティブな姿勢で臨むことができた。

Ayumi was petite and cheerful, comfortable with strangers, and talkative. She brought a positive attitude to just about any situation once she had made up her mind to do so.

直前の brought a positive attitude を受けて do so が用いられている。

(6)　それでも天吾は父親に何かを話しかけなくてはならなかった。ひとつにはそれが医師と約束したことであったからだ。

Still, Tengo had to speak to his father, if only because he had promised the doctor that he would do so.

直前の speak to his father を受けて do so が用いられている。

(7)　どれだけガードが堅くても、なんとかそれをこじ開けなくてはならない。いや、堅ければ堅いほどそれはこじあけられなくてはならない。そのためのうまい方策を考えつかなくてはならない。ない知恵を絞って。

No—the more tightly it was guarded, the more he had to pry it open. And to do so, he would have to wrack his brain to come up with a plan.

直前の pry it open を受けて do so が用いられている。

(8)　ただ私は、ここのところ何日かのあいだ、岡田様の身に何か悪いことが起こったのではないかとご心配申し上げておりましたものですから、失礼をもかえりみませず、ついそのような立ち入ったことをお伺いいたしましたような次第です。『ねじまき鳥』

I know it was terribly rude of me to ask such a personal question, but I did so only because I was worried that something very bad had happened to you over the past several days.

直前の ask such a personal question を受けて do so が用いられている。

【3】どのような場合に do that になるか。

以下の三つに分けて議論する。

（Ⅰ）動作を強調する場合
（Ⅱ）発言内容を指す場合
（Ⅲ）複数の動作を含む前文を指す場合

（Ⅰ）動作を強調する場合は do that になる。

例(1)を再掲する。

(1)　ある人物を殺害しなくてはならないのなら、そしてそのための正しい理由があるのなら、私は全力を尽くしてそれにあたる。

If I have to kill a person and have a proper reason for doing so, I will do that with all my strength.

「それにあたる」の do that は「動作の繰り返し」と捉えれば do so も可能と思われるが、「全力を尽くしてそれにあたる」という決意表明と考えられるので、「そのための」の doing so に比べて感情がこもった表現になっている。そこで do that になっていると考える。

「感情がこもる」というあいまいな表現で説明したが、今回の QB の回答の中に Quirk *et al.* を援用して「do that は do と that の両方に強勢が置かれる。場合によっては that の方を強く言うこともあります」とか、安藤貞雄氏の「that には it にはない『情緒性』あるいは『思い入れ』がまつわることがある、とはいえるかもしれない」という考えが引用されていることからも、例(1)の so と that の使い分けを説明するのに妥当な考え方ではないかと筆者は考える。ちなみに、QB 中の She rode a camel: she had never done so において、ALT が done so より done that の方が良いと言ったというのも、回答者が、done that を用いて「ラクダに乗るという珍しい行為を目立たせたかった」のでは、と解説しているように、ここに含められるであろう。(9)(10)は類例である。

(9) まあとにかく彼は子供のように、とても自然ににっこりと笑うことができる。普通の大人の男にはそういう笑い方はできない。「眠り」『象の消滅』
Anyhow, he smiles in this natural, innocent way, just like a child. Not many grownup men can do that.

(10) 「脚が治ったらまた柔道に戻ります。なんといっても柔道をやっていれば、食いっぱぐれがないんです。うちの学校は柔道に力を入れていますからね。寮にも入れるし、食堂の食券も一日三食支給されます。吹奏楽部じゃそうはいきません」
“I’ll go back to judo when my leg gets better. Judo keeps me fed. My school supports judo in a big way. They cover my room and board. The band can’t do that.”

このように考えると、次例(11)で、「そんなことができる」が could do that と訳されているのも理解できる。また、QB の回答者が do that に「そういうことをする」「そんなことをする」という訳を与えていることも補強材料となるであろう。

ただし、この場合、直前の動作が一つではないので「前文の内容」を受けて do that となっているとも考えられる。（これに関しては下の（Ⅲ）参照）

(11) 投球のたびにどちらに身体の重心を傾ければいいかを心得ていたし、打者がボールを打つと、ボールが飛んだ方向を即座に見定め、的確な位置にカバーに走った。そんなことができる内野手はなかなかいない。
With each pitch, she knew toward which side to incline her center of gravity, and as soon as the

batter connected with the ball, she could gauge the direction of the hit and move to cover the proper position. Not a lot of infielders could do that.

（Ⅱ）発言内容を指す場合には do that になる。

まず do so の例である(6)を再掲する。

(6)　それでも天吾は父親に何かを話しかけなくてはならなかった。ひとつにはそれが医師と約束したことであったからだ。
Still, Tengo had to speak to his father, if only because he had promised the doctor that he would do so.

これに関して QB の回答者の次のコメントを再掲する。(6)はこれに当てはまると考えられる。

「do so が使われる最も典型的な例は、ある人が自分の約束を守って、あるいは人からの求めに応じて、ある特定の行為をするという場面でしょう」

回答者はこれを「期待に応える do so」と呼んでいて、挙げられている例を再掲する。

(f)　They asked me to call them and I did so.-*OALD*
(g)　The troops will not advance until ordered to do so.-*LDCE*

(f)は call them を受けての did so、(g)は advance を受けての do so である。しかし、このように一文中で、ある動詞句とそれを受ける代動詞句が用いられているのではなく、直前の「発言内容」を受けている場合には、do so ではなく do that になる場合がある、というのがこの項で例証することであるが、その前に、「発言内容」を受ける that について考える。
次例(A)(B)参照。

(A)　「いずれにせよ、今日はあっさりとあきらめて、二人でおとなしくお酒を飲んで、うちに帰って寝ちゃおう」
「それがいいかもね」とあゆみは言った。
“Anyhow, let’s just forget it. We’ll have a nice, quiet drink, then head home and go to bed.”
“That may be the best thing,” Ayumi said.

この場合には「相手の発言」を受けて「それが」が that と訳されている。

(B)　「ものごとの帰結は即ち善だ。善は即ちあらゆる帰結だ。疑うのは明日にしよう」と小松は言った。「それがポイントだ」

“The conclusion of things is the good. The good is, in other words, the conclusion at which all things arrive. Let’s leave doubt for tomorrow,” Komatsu said. “That is the point.”

この場合には先行する「自分の発言」を受けて「それが」が that と訳されている。以下、do that に関して、この(A)(B)二つに分けて考察する。

（A）相手の発言内容を指す場合

次例(12)は、原文に「　」はないが、英訳では、小松の発言が“　”に入れられて、それに対する返事は地の文になっている。「そうします」は期待に応える発言である。

(12)　だから次の作品を書いたら読ませてもらいたい、誰よりも先に、と小松は言った。そうしますと天吾は言った。

“So I’d like you to let me read your next story before you show it to anyone else.” Tengo promised to do that.

「そうします」が do that と訳されているが、let me read という動詞句を受けて、期待に応えているので、do so でも良いようにも思われるが、このような do that を筆者は「相手の発言内容を受けての do that」と考えている。つまり、「期待に応える」場合であっても、相手の発言に応えている場合は so より that が優先されるのではないか、ということである。

QB で、『アルファ英文法』をひいて、“I tried bungee jumping.” “That’s cool. I want to do that” という会話例が挙がっている。She rode a camel: she had never done so において、「ラクダに乗るという珍しい行為を目立たせたる」ために so を that にするのと同様とも考えられるが、ここに分類することもできるかもしれない。

次例(13)は、類例であるが(12)とは逆に地の文を受けての発言「もちろんそれは可能です」で do that が用いられている。

(13)　老婦人は青豆に個人的なトレーニングを求めていた。週に二日か三日、自宅でマーシャル・アーツを教授してもらえないだろうか。できれば筋肉のストレッチングもしてもらいたい。

「もちろんそれは可能です」と青豆は言った。「個人出張トレーニングとして、ジムのフロ

ントをいちおう通していただくことになりますが」

She wanted Aomame to become her personal trainer, instructing her in martial arts at her home two or three days a week. Also, if possible, she wanted Aomame to help her with muscle stretching. “Of course I can do that,” Aomame said, “but I’ll have to ask you to arrange for the personal training away from the gym through the club’s front desk.”

次例⒁は、「期待に応える」のではないが、「会う」が繰り返されているので、小松の発言「それでいつその相手に会うんだ？」は do so でも良いように思えるが、「相手の発言に対する返事」なので do that になっていると考えられる。

⒁　「誰かはわかりません。とにかくその人物に会って、話をしてほしいということです」
小松は数秒間沈黙した。「それでいつその相手に会うんだ？」
“I don’t know. She wants me to meet this person and talk.”
Komatsu kept silent for a few seconds. “So when are you supposed to do that?”

（A）から（B）へのブリッジ

次例⒂⒃も類例である。対話形式になってはいないが、実質的には相手の発言内容を受けて do that が用いられている。会話文（せりふ）であっても、地の文であっても同様である。

⒂　「次の作品に期待しろと天吾くんは言う」と小松は言った。「俺だってもちろん期待はしたいさ。
“You’re saying we should count on her next work as a winner,” Komatsu said. “I’d like to be able to do that, too, of course.

⒃　小松が言うように、文章に大幅に手を入れざるを得ないことは明らかだが、そうやってなおかつ、作品本来の雰囲気や資質を損なわずにおけるものだろうか。
True, as Komatsu had said, the style needed a great deal of improvement, but would it be possible for him to do that without destroying the work’s fundamental nature and atmosphere?

「実質的には相手の発言」と述べたが、これは、一人の人物、あるいは一人の語り手の発言の中に、「自分と相手という関係性」が成立している場合、「自分の発言」であっても「実質的には相手の発言」とも言える場合がある、と筆者は考えている。この観点から、次項(B)に移る。

（B）自分の発言内容を指す場合

上の⑿～⒁は相手の発言内容を受けての do that であったが、⒂⒃のように、形式上は、話し手や語り手自身の発言や考えたことの内容を指す場合にも do that になることを見た。これを筆者は「相手との関係性」の上に成り立っている発言と考えると述べた。

以下の例の場合も、「自分の発言内容」とはいうものの、「相手との関係性」の上に成り立っている発言であると思われる。⒄の場合は「あなた」が「私」のためにしてくれたことに関して、do that、⒅の場合、「相手へのアドバイス」として「そうすれば」が do that と訳されている、と考える。

ちなみに、自分の発言内容ではあるが、相手との関係性に基づくものではなく、自分の目の前に事実や出来事を並べたような発言の場合は do this で受けると考える。（【５】参照）

例文の下のイタリック体の部分は筆者による追記である。

⒄ いったんジになるとそれはわたしのはなしではなくなる。あなたはうまくそれをジにかえたしだれもあなたのようにはうまくできなかったとおもう。
Once it gets written down, the story is not mine anymore. You did a good job of writing my story. I don’t think anybody else could do that.

⒅ リトル・ピープルからガイをうけないでいるにはリトル・ピープルのもたないものをみつけなくてはならない。そうすればもりをあんぜんにぬけることができる。
To make sure the Little People don’t harm you, you have to find something the Little People don’t have. If you do that, you can get through the forest safely.

⒆ 君は重い試練をくぐり抜けなくてはならない。それをくぐり抜けたとき、ものごとのあるべき姿を目にするはずだ。
You are fated to pass through great hardships and trials. Once you have done that, you should be able to see things as they are supposed to be.

⒇ それから彼女は子供の話をした。彼女はよく天吾を相手に子供の話をした。
After that, she talked about her children. She often did that with Tengo.
原文は「子供の話をした」を繰り返しているが、あとの「子供の話をした」が do that と訳されている。「天吾を相手に」とあるからと考えられる。

(21) 「そういうこと。使う肉体の場所は同じでも、気持ちは使い分けているわけ。だからそれはいいのよ。成熟した女性として、私にはそれができる。でもあなたがほかの女の子と寝

たりするのは許せない」

“That’s it. Even if I use the same body parts, I make a distinction in the feelings I use. So it really doesn’t matter. I have the ability to do that as a mature woman. But you’re not allowed to sleep with other girls and stuff.”

「それができる」は「気持ちは使い分けている」を受けて do that になっているが、上の⑯と同様「（天吾を相手に）気持ちを使い分けている」のである。

㉒　それから英会話と車の運転も暇をみつけて練習しておいてね。それはできる？『スプートニク』

And I’d like you to practise English conversation and driving whenever you have the time. Do you think you can do that?”

「英会話と車の運転を練習する」を受けて do that になっている。「相手への依頼」である。

㉓　事情はできる限り詳しく説明するつもりです。でもその前にあなたに会ってもらいたい人がいます。これから二人で彼女に会いに行きましょう」

“I intend to explain the situation to you in all possible detail. Before I do that, however, I have someone I would like you to meet. Shall we go now to see her?”

「事情はできる限り詳しく説明する」を受けて「その前に」が before I do that と訳されている。「相手との関係性」にもとづく発話である。

この項の最後に、参考例として㉔を挙げる。原文に「こんなこと」とあるが、do this ではなく do that になっている。相手との関係性において、前文の内容を指しているからと考えられる。（do this については【5】で取り上げる。また、「こんなこと」については【7】で取り上げる）

㉔　そして今度は、これまでになく危険な場所にあなたを送り込もうとしています。本当ならこんなことはしたくない。でも残念ながら今のところ、目的を果たす方法はほかに見あたりません。

And now, I’m getting ready to send you into far greater danger than ever before. I don’t really want to do that, but unfortunately, I can’t think of any other way to accomplish our goal.

（Ⅲ）複数の動作を含む発言内容を指す場合は do that になる

次に、例㉓と同じく「その前に」が用いられていて、do that と訳されている例㉕を挙げる。㉕では、英訳は最後の文だけ示すが before he could do that の that は前段落の内容を受けている。そして「相手との関係性」にもとづいてはいないように思えるが、do that と訳されている。こ

れは、一つの動作の繰り返しを表す do so では受けることができない複合的な内容を受けていると筆者は考えている。

⑵⑸　さしあたっての問題は、自分自身の人生をどのように立て直すかだ、と天吾はアパートの階段を三階まで上りながら思った。房総半島の南端まで父親に会いに行って、彼が本当の父親ではないだろうというおおよその確信を得ることができた。人生の新しい出発点のようなところに立つこともできた。ちょうど良い機会かもしれない。このあたりでいろんな面倒とは縁を切り、人生をあらためてやり直すのも悪くない。新しい職場、新しい場所、新しい人間関係。自信と言えるようなものはまだないにせよ、これまでよりはいくぶん筋道の通った人生が送れるのではないかという予感はあった。
しかしその前に片づけなくてはならないことがある。
Before he could do that, however, there were things he had to take care of.

⑵⑸との比較例として次を挙げる。(「私」の i が小文字になっているのは原文のまま)
My friend always falls asleep before i do so i want to pull a prank. what is a good prank?
https://answers.yahoo.com/question/index?qid = 20120304094142AAdGlD4

この場合の do so は、前文の内容ではなく、fall asleep という動作を指している。このような場合には before I do so となっているが、⑵⑸はそうではない、ということである。

【4】どのような場合に do it になるのか。

(Ⅰ)動作の結果の「出来事」と名詞的に捉えている場合には do it になる

【1】の冒頭の例 We cannot confirm who was the first European to drink tea. However Marco Polo may have been the first to do so において、「最後の do so の so は it でも構わないと ALT が言ったがそれは何故だろう？」というのが QB における質問の切掛けであったわけであるが、ここまでの考察を経て、do it と do so に関して言えることは、do so が用いられている場合は「単なる動作の繰り返し」である、ということだけである。

それでは「単なる動作の繰り返し」であっても do it が可能となると、do so との違いはどこにあるのか。『ねじまき鳥クロニクル』からの次の比較例(A)(B)(C)参照。

(A)　そして郵便受けなり下駄箱なりについた名札で（もしそういうものがあればだが）誰かがまだそこに住んでいるのかどうか確かめようとした。でもそのときに僕は突然、そこに誰かがいることに気づいた。誰かが僕をじっと見ている。『ねじまき鳥』
By checking the name tags (if there were any) on the mailboxes or the shoe cabinet, I intended to see

if anyone was still living here, but before I could do so I realized that someone was there. Someone was watching me.

「そのときに」が before I could do so と訳されている。これは、「確かめる」ということがまだ実際には行われていないので、「出来事」と捉えられず、「動作の繰り返し」として do so になっていると考える。

(B) ずっと遠くに空き缶を置いて、それがいっぱいになるまで石を放ったものだった。僕はそれを何時間も飽きずに続けることができた。『ねじまき鳥』単行本

I'd set up an empty can, back way off, and throw rocks until the can filled up. I could do it for hours.

この場合には「それを」が it と訳されている。これは、実際に行ったことを指しているので「出来事」と捉えて do it になっていると考える。(引用が単行本からになっているのは、この部分が文庫、全集版では削除されているからである。

(C) でも詩っていったって、女子高生のよむような詩よ。べつに文学史に残るような立派な詩を書けっていっているわけじゃないんだから。適当にやればそれでいいのよ。わかるでしょ？『ねじまき鳥』

Sure, but I'm not talking about great poetry, just something for high school girls. It doesn't have to find a place in literary history. You could do it with your eyes closed. Don't you see?

「適当にやればそれでいいのよ」が You could do it with your eyes closed と訳され、まだ行われていない「詩を書く」が it で受けられている。この場合は、以下で詳しく例証するが、動作としての「詩を書く」ではなく、「詩を書くということ」と名詞的に捉えて it が用いられていると考える。言い換えれば、「詩を書く動作」の結果を指して it が用いられているのである。

つまり、(B)(C)に見えるように、指すものが、「動作の結果」として名詞句的に捉えられているときには do it になると考える。また、【1】で扱った QB に "Put the car away, please." "I've already done so" という例が挙がっていて、ALT は done it も可能と言ったということであるが、「動作」を受けていると捉えるか、「動作の結果」を受けていると捉えるかの違いではないだろうか。

ただし、これらは英訳において it が用いられている例を検討しての判断なので、先行する部分を出来事（名詞）と捉えている場合「それ」は it と英訳されるということの直接的根拠とするには不十分と、筆者自身考えている。

以下類例を挙げる。

(26)　「悪いけど既に栓が開いていて、テイスティングぶん量が減っている。昨日、味にクレームがついてね、替わりのを出したんだけど、実際のところ、味には悪いところなんてひとつもない。相手はさる高名な政治家で、その世界ではワイン通ということで通っている。でもほんとはワインのことなんてろくにわかっちゃいないんだ。ただ人の手前、かっこうをつけるためにいちおうクレームをつけるんだよ」

“Sorry, it’s already been uncorked, and one tasting’s worth is gone. A customer complained about the taste yesterday and we gave him a new bottle, but in fact there is absolutely nothing wrong with this wine. The man is a famous politician who likes to think he’s a wine connoisseur, but he doesn’t know a damn thing about wine. He did it to show off.”

「ただ人の手前、かっこうをつけるためにいちおうクレームをつけるんだよ」がHe did it to show off と訳されている。原文ではまず「味にクレームがついてね」とあり、それを繰り返して「クレームをつけるんだよ」が用いられ、その「クレームをつける」がdid it と訳されている。原文では「繰り返し」であるが、英訳では、直前の「過去の出来事」(A customer complained about the taste）を指してit が用いられていると考える。

QB の回答者が do it に「それをする」「そのことをする」という日本語を当てているが、この例の場合、「そのようにした」ではなく「そういうことをした」と捉えているのではないか。つまり、do it は「動作」を受けているというよりは、その結果としての「出来事」を受けている場合に用いられると考える。そして、「出来事」は名詞である。

そこで、次例(27)の場合、先行する名詞「大量虐殺」を受けて「やった方」が The ones who did it と訳されているのである。

(27)　「大量虐殺？」

「やった方は適当な理屈をつけて行為を合理化できるし、忘れてもしまえる。見たくないものから目を背けることもできる。でもやられた方は忘れられない。目も背けられない。記憶は親から子へと受け継がれる。世界というのはね、青豆さん、ひとつの記憶とその反対側の記憶との果てしない闘いなんだよ」

“Massacre?”

“The ones who did it can always rationalize their actions and even forget what they did. They can turn away from things they don’t want to see. But the surviving victims can never forget. They can’t turn away. Their memories are passed on from parent to child. That’s what the world is, after all: an endless battle of contrasting memories. ”

次例(28)の場合、Building this house は主語になっていることから名詞なので「築く」が do it と

訳されている。

(28) その家屋を建てることは、それも自分の手で築くことは、彼にとってそれくらい重要な意味を持っていたんだ。
Building this house, and doing it with his own hands, was very important to him.

(29) 「仕事を休んでこの町にやってきて、旅館に部屋をとり、毎日ここに面会に来てあなたに話しかけた。そろそろ二週間になる。でも僕がそうしたのは、あなたの見舞いや看病をすることだけが目的じゃなかった。自分がどんなところから生まれてきたのか、どんなところに自分の血が繋がっているのか、それを知っておきたいと思ったということもある。
"I took time off from my job, came to this town, rented a room at an inn, and have been coming here every day and talking to you—for almost two weeks now. But I wasn't just doing it to see how you were doing or to take care of you. I wanted to see where I came from, what sort of bloodline I have.
「そうした」が doing it と訳されているということは、「この町でしたこと」を出来事と捉えていると考える。

(30) それ以来教団は着々と地歩を固めてきた。いや、着々というよりむしろ急速にというべきだろうな。
Ever since then, Sakigake has continued steadily to strengthen its position as a religious organization. No, what am I saying? Not steadily: they did it quite rapidly.
「地歩を固めてきた」を出来事と捉えている。

(31) 「戎野先生はこの計画に加わることで、いったい何を得るのですか？　お金のためにやっているとも思えませんが」
"What does Professor Ebisuno have to gain from participating in this plan? He can't possibly be doing it for the money."
「戎野先生」はすでに「この計画」に参加しているので、「計画に加わること」が出来事と捉えられている。

(32) 奇妙なものだ、と青豆は思った。私はこの男を殺害するためにここにやってきた。バッグの中には特製の極細アイスピックが入っている。その針の先端をこの男の首筋のしかるべき箇所にあて、柄の部分をこんと叩けば、それですべては終わる。何が起こったのかわからないまま相手は瞬時に命を失い、別の世界に移動する。そして彼の肉体は結果的にすべての痛みから解放される。なのに私は全力を尽くして、この男が現実の世界で感じている

苦痛を、少しなりとも軽減しようと努めている。
たぶんそれが私に与えられた仕事だからだ、と青豆は思う。
I am probably doing it because this is the work that I have been given to do, Aomame thought.
原文に「仕事」とあるように、英訳者も「私は全力を尽くして、この男が現実の世界で感じている苦痛を、少しなりとも軽減しようと努めている」ことを仕事と捉えてdoing it としたものと考えられる。

(33) 「共同生活ってどう？　他の人たちと一緒に暮すのって楽しい？」と直子は訊ねた。
「よくわからないよ。まだ一ヵ月ちょっとしか経ってないからね」と僕は言った。「でもそれほど悪くはないね。少くとも耐えがたいというようなことはないな」
彼女は水飲み場の前で立ち止まって、ほんのひとくちだけ水を飲み、ズボンのポケットから白いハンカチを出して口を拭いた。それから身をかがめて注意深く靴の紐をしめなおした。
「ねえ、私にもそういう生活できると思う？」
「共同生活のこと？」『ノルウェイ』
She stopped at a fountain and took a sip, wiping her mouth with a white handkerchief she took from her trouser pocket. Then she bent over and carefully retied her laces.
“Do you think I could do it?”
“What? Living in a dorm?”
「共同生活」という名詞が話題になっているので、「そういう」がit で訳されている。

（Ⅱ）前文を受けてでなくても発話者が「出来事」を頭に思い浮かべて言う場合には do it。

次例の場合、「やりまくっていた」が doing it と訳されているが、it の前に「交尾期にあたっていて」とはあるが、動作として「交尾していた」にあたる部分はない。「交尾」という「出来事」を指していると考えられる。

(34) 「行ったのがちょうどカンガルーの交尾期にあたっていて、ある街に行ったら、そこいら中でとにかくカンガルーがやりまくっていたんだって。公園でも、通りでも、ところかまわず」
“It was right during the kangaroo mating season. He went to one town and the kangaroos were doing it all over the place. In the parks, in the streets. Everywhere.”

（Ⅲ）いったん代名詞になっているものを受ける場合には do it。

⑶⑸ 「ちょっと待って下さい。だってこれはそもそも小松さんの持ってきた話じゃないですか。僕だってそれにまだ返事をしていません。

"Now, wait just a minute. This was all your idea. I still haven't even told you if I'll do it.

最後の it は this を受けている。

⑶⑹ 「僕が今ここで知りたいのは、僕が君にかわって『空気さなぎ』を書き直すということを、君がどう考えるかってことなんだ。僕がいくら決心したって、君の同意と協力がなくては、そんなことできっこないわけだから」

ふかえりはプチトマトをひとつ指でつまんで食べた。天吾はムール貝をフォークでとって食べた。

「やるといい」とふかえりは簡単に言った。そしてもうひとつトマトをとった。「すきになおしていい」

"What I'd like to hear from you now is what you think of the idea of me rewriting Air Chrysalis instead of you. Even if I decided to do it, it couldn't happen without your agreement and cooperation."

Using her fingers, Fuka-Eri picked a cherry tomato out of her salad and ate it. Tengo stabbed a mussel with his fork and ate that.

"You can do it," Fuka-Eri said simply. She picked up another tomato. "Fix it any way you like."

ふかえりの言う You can do it の it は、「僕」の言う decided to do it の it を受けている。

【5】どのような場合に do this になるのか。

QB では、so, it, that については扱われていたが、do this は扱われていなかった。しかし、以下に例証するように、原文において「それ」「そうする」などと「そ」の系統の語が用いられている場合に、その英訳において do this が用いられている場合もある。次例⑶⑺参照。

⑶⑺ 島根県にいる賢い猫が紹介された。猫は自分で窓を開けて外に出ていくのだが、出たあと自分で窓を閉めた。飼い主がそうするように教え込んだのだ。

Next there was a feature that introduced a clever cat from Shimane Prefecture that could open a window and let itself out. Once out, it would close the window. The owner had trained the cat to do this.

登場人物の一人がテレビを見ている場面を小説の語り手が描写している文章である。テレビ画面の映像を、語り手も目の前で見ているかのように描写しているので「そうする」が do this と訳されていると考える。上の do that の項でも述べたが、ここには、「相手との関

係性」はない。

(38) 少女はやがて決心して自分の空気さなぎを作り始める。彼女にはそれができる。
The girl eventually makes up her mind and begins fashioning her own air chrysalis. She is able to do this.
目前の出来事の描写。

(39) 数日後、少年は突然発症し、遠くの療養所に送られる。それがどのような病気なのか、公にはされない。いずれにせよ、トオルが学校に戻ることはもうないだろう。彼は失われてしまったのだ。
それはリトル・ピープルからのメッセージなのだと少女は悟る。彼らはマザである少女には直接手を出すことができないらしい。そのかわりまわりにいる人間に害を及ぼし、滅ぼすことができる。誰に対してでもそれができるというわけではない。その証拠に彼らは保護者である日本画家や、その娘のクルミには手を出すことができない。
The girl realizes that this is a message from the Little People. Apparently they cannot do anything to the girl, a maza, directly. What they can do instead is harm and even destroy the people around her. But they cannot do this to just anyone—they cannot touch her guardian, the painter, or his daughter, Kurumi.
引用文の最初に「数日後、少年は突然発症し、遠くの療養所に送られる」とあり、四行目の「それは」が this と訳されている。主人公の一人の前で起こったことなので this で訳されている。そして、「まわりにいる人間に害を及ぼし、滅ぼすこと」を指して「誰に対してでもそれができるというわけではない」とあり、これも cannot do this to just anyone と this で訳されている。

(40) 小松には時間の観念というものがない。自分が何かを思いついたら、そのときにすぐに電話をかける。時刻のことなんて考えもしない。それが真夜中であろうが、早朝であろうが、新婚初夜であろうが、死の床であろうが、相手が電話をかけられて迷惑するかもしれないというような散文的な考えは、どうやら彼の卵形の頭には浮かんでこないらしい。
いや、誰にでもそんなことをするわけではないのだろう。
Komatsu had no sense of time. He would place a call the moment a thought struck him, never considering the hour. It could be the middle of the night or the crack of dawn. The other person could be enjoying his wedding night or lying on his deathbed. The prosaic thought never seemed to enter Komatsu's egg-shaped head that a call from him might be disturbing.
Which is not to say that he did this with everyone.

この引用の数行前に「天吾は電話のベルで起こされた」とあり、それを踏まえて、主人公の一人の眼前で起こった「自分が何かを思いついたら、そのときにすぐに電話をかける」を指している「そんなこと」が this と訳されている。

(41) それでもとくに悲観的な気持ちにはならなかった。彼は自分に本能的な勘が具わっていることを知っていた。特殊な嗅覚器官によってまわりの様々な匂いを嗅ぎ分けることができた。肌に感じる痛みから、風向きの変化を掴むことができた。それはコンピュータにはできない作業だ。

But Ushikawa wasn't pessimistic. He had an innate sense of intuition, and his unique olfactory organ let him sniff out and distinguish all sorts of odors. He could physically feel, in his skin, how things were trending. Computers couldn't do this.

自分のできることを、目の前に並べて、「それは」とあるので、this と訳されている。

(42) 「彼は四角い部屋に入れられる。その部屋には何の変哲もない小さな木の椅子がひとつ置かれているだけだ。そして上官からこう命令される。『その椅子から自白を引き出して、調書をつくれ。それまではこの部屋から一歩も出るな』と」

"A candidate would be put in a square room. The only thing in the room is an ordinary small wooden chair. And the interrogator's boss gives him an order. He says, 'Get this chair to confess and write up a report on it. Until you do this, you can't leave this room.' "

眼前に提出された Get this chair to confess and write up a report on it という指示を指して「それまでは」の「それ」が用いられているので、this と訳されている。

(43) 天吾はそちらに行って、彼女に自分の班に移って来るように言った。深く考えることなく、ためらうこともなく、ほとんど反射的にそうした。

Tengo went to the other table and told the girl she should join his group. He did this almost reflexively, without deep thought or hesitation.

「彼女に自分の班に移って来るように言った」という自分の動作を指して this が用いられていえる。

(44) やがて少女はまた歩き出した。牛河は半分飲んだ缶コーヒーを足もとに置き、距離を十分にとってあとをつけた。見たところ少女は歩くという行為にひたすら神経を集中していた。さざ波ひとつない広い湖面を歩いて横断しているみたいな歩き方だ。このような特別な歩き方をすれば、沈むこともなく靴を濡らすこともなく水面を歩くことができる。そういう秘法を会得しているかのようだ。

Finally the girl took off again. Ushikawa laid the half-finished can of coffee at his feet and followed her at a safe distance. The girl seemed to be concentrating very hard on the act of walking, as if she were gliding across the surface of a placid lake. Walk in this special way, and you won't sink or get your shoes wet. It was as if she had grasped the key to doing this.

「このような特別な」が this special way と訳され、「この」が this になっているのだが、「そういう秘法」は the key to doing this とやはり this を用いて訳されている。

「この」が this で訳されていることについては次項【6】で扱う。

【6】「これ」などが this になっている場合。

上の例(44)の「このような」のように、原文において、「これ」など「こ」の系統の語で受けられていて、英訳も this になっている例を以下に挙げる。「これ」などが this で訳されるのは、日本人英語学習者には当然と思われ、ここで問題にするに値しないと思われるかもしれないが、【5】で「そ」の系統の「それ」などが this で訳されているのを見たが、すると結局、日本語の「それ」の系統の語と、「これ」の系統の語が、ともに英訳において this と捉えられる場合があるということになる。

以下の例からわかるように、すべて「登場人物」のせりふで、その話者の眼前の出来事に関して do this が用いられている。【5】では小説の「語り手」の眼前の出来事に関して do this が用いられていたので、塩濵（2013）で指摘した、三人称小説においては、演劇に例えれば、「語り手は舞台上にいる」という考えの傍証になると考える。

(45) 「わかっています。無理を言いました。あなたが無事に戻ってきてくれてとても嬉しい。もう二度とこんなことをお願いするつもりはありません。これでおしまいです。落ち着き場所は用意してあります。心配することは何もありません。そのセーフハウスで待機していてください。そのあいだにあなたが新しい生活に移るための準備を整えます」

"No, I realize that. We asked too much of you. I'm so happy you're all right. We won't be asking you to do this anymore. This was the last time. We have prepared a place for you to settle into. You won't have to worry about a thing. Just lie low for a while in the safe house. In the meantime, we'll make arrangements for you to move into your new life."

(46) 「インタビューの答えなんて、いくら準備したって無駄だと君は考えている」

ふかえりは小さく肩をすぼめた。

「僕も君の意見に賛成だ。僕だって好きでこんなことをやってるんじゃない。小松さんにやってくれと頼まれただけだよ」

"I'm sure you think it's a waste of time to prepare these answers."

Fuka-Eri gave a little shrug.
“I agree with you. I’m not doing this because I want to. Mr. Komatsu asked me to do it.”

(47)　「私だって好きこのんでこんなことをしているわけじゃない。今の私は山の中で気楽な生活を送っている。今さら世間の耳目を引くようなことに関わり合いたくはない。そんなことをしても一文の得にもならん」
“I’m not doing this for fun or profit. I enjoy my nice, quiet life in the mountains, and I don’t want to get mixed up with anything that is going to draw the attention of the public.”

(48)「高井さん、かくれんぼはもうよしましょう。こちらも好きでこんなことをやってるんじゃありません。
“Miss Takai, let’s not play hide and seek anymore, okay? I’m not doing this because I like to.

(49)　「ハジメくん、私はあなたを飛行機の時間に遅らせるためにわざとこんなことをしたわけじゃないのよ」と島本さんは小さな声で言った。『国境の南』
“Hajime, I didn’t do this just so we’d miss the plane,” she said in a small voice.

【7】その他　各論

この項では、以上の考察を補強するための比較例を挙げる。

（A）qualified to do so/that/it

「その資格がある」「そうする資格がある」などという場合を取り上げる。

(1)　今の私を抹殺することができるのは、それだけの資格をもったものだけだ。『海辺のカフカ』
The only one who could wipe me out right now is someone who’s qualified to do so.

この例の場合 do so になっているが、「抹殺する」という動作の繰り返しと考えられる。しかし、次例(2)の場合、「その」は「傷つける」という動作の繰り返しのように思えるが、英訳は do that になっている。

(2)　「おいおい、だから言ったじゃないか。そんなに笑わせないでくれ。どのような力をもってしても、君には私を傷つけることなんてできないんだ。君にはその資格はないんだからな。君はただの薄っぺらな幻影にすぎないんだ。安もののこだまみたいなものにすぎない

んだ。なにをやったところで無駄だ。まだわからんのかい？」『海辺のカフカ』

“See, what’d I tell you? Don’t make me laugh. You can try all you want, but it’s not going to hurt me. You’re not qualified to do that. You’re just a flimsy illusion, a cheap echo. It’s useless, no matter what you do. Don’t you get it?”

この場合には自分と相手のあいだの関係性に基づいて「傷つける」が用いられていると筆者は考える。(1)の The only one who could wipe me out right now is someone who’s qualified to do so は一般論であるが、(2)の You’re not qualified to do that は、この場面の二人の登場人物の間における発話である。同じことが次例(3)にも言える。

(3) 今彼女が求めているのは、私がその狂気なり偏見なりを彼女と共有することなのだ。同じ冷徹さをもって。そうする資格が私にはあると彼女は信じている。

What she wants now is for me to share her madness or prejudice or whatever it is. With the same coolheadedness that she has. She believes that I am qualified to do that.

原文の「そうする」は「（その狂気なり偏見なりを）彼女と共有すること」であるので、二人の登場人物の間における関係性に基づく発話である。

次例(4)は、do it の例である。

(4) 「おそらくそれと同じ作業を君は要求されている」

天吾は両手を膝の上で広げた。「むずかしそうです」

「しかしやってみるだけの価値はありそうだ」

「僕にその資格があるかどうかさえわかりません」

“Perhaps that same process is what is being demanded of you.”

Tengo opened his hands on his knees. “Sounds difficult.”

“But it’s probably worth a try.”

“I’m not even sure I’m qualified to do it.”

最後の do it は、その前の「作業」が it’s probably worth a try と it で受けられているので、it になっている。

（B）「それは青豆にしかできないことだった」

次の三例はすべて、その直前の文章を受けて、「そ」の系統の語が用いられているものである。(1)では「それ」が this、(2)では「それ」が it、(3)では「そんなこと」が that と訳されている。こ

れらの例を検討して this、it、that の違いを考える。

⑴　それにさえ留意すれば、あとは豆腐に針を刺すみたいに単純なことだ。針の先端が肉を貫き、脳の下部にある特定の部位を突き、蝋燭を吹き消すように心臓の動きを止める。すべてはほんの一瞬のうちに終わってしまう。あっけないくらい。それは青豆にしかできないことだった。

As long as she was careful about those details, it was as simple as driving a needle into a block of tofu. The needle pierced the skin, thrust into the special spot at the base of the brain, and stopped the heart as naturally as blowing out a candle. Everything ended in a split second, almost too easily. Only Aomame could do this.

「それは」が this と訳されている。「針の先端が肉を貫き、脳の下部にある特定の部位を突き、蝋燭を吹き消すように心臓の動きを止める」という、一つの動画のような場面が語り手の頭の中に浮かび、それを指して this が用いられている。自分の頭の中にあるものなので this になると考える。上の例㊳と同様である。

⑵　彼女を前にしていると、孤独という基本的なアンダートーンを、一時的にせよ忘れることができた。彼女はぼくの属している世界の外縁をひとまわり広げて、大きく息をつかせてくれた。そんなことができるのはすみれだけだった。『スプートニク』

It was hard to accept that she had almost no feelings, maybe none at all, for me as a man. This hurt so bad at times it felt like someone was gouging out my guts with a knife. Still, the time I spent with her was more precious than anything. She helped me forget the undertone of loneliness in my life. She expanded the outer edges of my world, helped me draw a deep, soothing breath. Only Sumire could do that for me.

「ぼくの属している世界の外縁をひとまわり広げて、大きく息をつかせてくれた」を受けて that が用いられている。前文の内容を受けて that、また二人の人物の間の関係性に基づいての「それ」なので that とも言える。

⑶　分身は自らを再生産することはできない。それができるのはマザだけだ。

An alter ego can’t reproduce itself—only the maza can do it.

「それ」が it と訳されている。「自らを再生産すること」と名詞句的に受けて it が用いられていると考える。

（C）「そのために」to do so/that

（Ⅰ）「そのために」to do so

⑴　責務という観念は、常に天吾を怯えさせ、尻込みさせた。責務を伴う立場に立たされることを巧妙に避けながら、彼はこれまでの人生を送ってきた。人間関係の複雑さに絡め取られることなく、規則に縛られることをできるだけ避け、貸し借りのようなものを作らず、一人で自由にもの静かに生きていくこと。それが彼の一貫して求め続けてきたことだ。そのためには大抵の不自由を忍ぶ用意はあった。

The concept of duty always made Tengo cringe. He had lived his life thus far skillfully avoiding any position that entailed responsibility, and to do so, he was prepared to endure most forms of deprivation.

「そのために」は avoiding any position that entailed responsibility を指す。

⑵　青豆はしばらくのあいだ言葉を失っていた。それから別の質問をした。「自分の娘を観念的に多義的に犯すことによって、あなたはリトル・ピープルの代理人になった。しかしあなたがリトル・ピープルの代理人となるのと同時に、彼女はその補償のために、あなたのもとを離れていわば敵対する存在になった。あなたが主張しているのは、つまりそういうことかしら？」

「そのとおりだ。彼女はそのために自らのドウタを捨てた」と男は言った。「しかしそう言われても、どんなことだかよく理解できないだろうね」

Aomame was at a loss to say anything for a time. Then she asked another question. “By violating your daughter, conceptually and ambiguously, you became an agent of the Little People. But simultaneously, your daughter compensated by leaving you and becoming, as it were, an opponent of the Little People. Is this what you are asserting?”

“That is correct. And in order to do so, she had to leave her own dohta behind,” the man said. “That doesn’t mean anything to you, though, does it?”

「そのため」は becoming, as it were, an opponent of the Little People を指す。

（Ⅱ）「そのために」to do that

⑶　そしてまた彼は、この新しく訪れた世界に自分を同化させるための時間を必要としていた。心のあり方を、風景の眺め方を、言葉の選び方を、呼吸のしかたを、身体の動かし方を、これからひとつひとつ調整し、学びなおさなくてはならない。そのためにはこの世界にあるすべての時間をかき集めなくてはならなかった。いや、ひょっとしたらこの世界だけでは足りないかもしれない。

He knew, too, that it would take time for him to acclimate himself to this new world that had come

upon him. His entire way of thinking, his way of seeing things, the way he breathed, the way he moved his body—he would need to adjust and rethink every single element of life. And to do that, he needed to gather together all the time that existed in this world. No—maybe the whole world wouldn't be enough.

前文の内容を受けてdo that になっている。

（D）二種類の「それは」

以下は、do so/it/that/this の例ではないが、this と that の違いを理解する手助けとなると考えるので、ここで扱う。

次の二例では、ともに地の文中で「それは」が用いられている。⑴の「それは」が指しているのは「許可を上司から受けていなかったこと」、⑵の「それは」が指しているのは「事情がもっと明らかになるまで、彼とポニーテイルは本部に残らなくてはならない（ということ）」であると考えられる。

ともに直前の文を受けているにも関わらず、英訳では⑴の「それは」は this と訳され、⑵の「それは」は that と訳されている。

⑴　東京に戻る許可を上司から受けていなかったことに気づいたのは、高速道路に乗ってしばらくしてからだった。それは後日問題になるかもしれない。やむを得ない。

They had been on the highway for a while by the time it occurred to Buzzcut that he hadn't gotten permission from his superiors to go back to Tokyo. This could come back to haunt him, but it was too late now.

⑵　しかし上司は彼の東京行きを認めなかった。事情がもっと明らかになるまで、彼とポニーテイルは本部に残らなくてはならない。それは命令だった。

His superior, however, didn't permit him to return to Tokyo. Until things got a bit clearer, he and Ponytail were to stay put. That was an order.

⑴の場合、「それは」が指しているのは、この時点で「気づいたこと」である。それは「語り手の眼前」に存在することなので this になる。⑵では、「彼とポニーテイル」はすでに東京に向かっていて、「事情がもっと明らかになるまで、彼とポニーテイルは本部に残らなくてはならない」という命令をこの段階で破っている。つまり、命令は過去のものになっていて、眼前には存在しない。そこで、前文の内容を受けて「それは」が that になっているのである。

（E）「こんなことになって」come to this/that

以下も、do so/it/that/this の例ではないが、this と that の違いを理解する手助けとなると考えるので、ここで扱う。

次例(1)(2)にはともに「こんなことになって」という部分があるが(1)では come to this と訳され、(2)では come to that と訳されている。(2)は最後の三行だけ英訳を付す。

(1)　「――しかし後悔はしていません。すべてはおそらくは宿命のようなものだった。あなたを巻き込まないわけにはいかなかった。私には選びようがなかったのです。そこにはとても強い力のようなものが働いていて、それが私を動かしてきました。こんなことになってあなたには申し訳なかったと思っています」

“But I have no regrets. Everything was more or less destined to happen. I had to involve you. I had no choice. A very strong force was at work, and that is what has moved me. Still, I feel bad for you that it has come to this.”

(2)　健康保険と、退職金と、貯金と、年金のおかげで、天吾の父親はそこで残りの人生をまず不自由なく送ることができそうだった。運良く NHK の正規職員に採用されたおかげだ。財産と呼べるほどのものはあとに残せないにせよ、少なくとも自分の面倒をみることはできる。それは天吾にとってはなによりありがたいことだった。相手が自分にとっての本当の生物学的な父親であれ、どうであれ、天吾はその男から何ひとつ受け取るつもりはなかったし、その男にとくに何かを与えるつもりもなかった。彼らは別々のところからやってきた人間であり、別々のところに向かっている人間なのだ。人生の何年かをたまたま一緒に送った。それだけのことだ。こんなことになって気の毒だとは思ったが、かといって天吾にしてやれることは何もなかった。

By chance, they had spent some years of life together, that was all. It was a shame that things had come to that, Tengo believed, but there was absolutely nothing he could do about it.

(1)は青豆と老婦人の電話での対話であるが、状況は共有されている。そこで「こんなことになって」は対話者の眼前にある状況を指しているので come to this と訳されている。(2)は天吾が父親のことを考えている場面であるが父親は、離れたところにいるので、状況は共有されていない。そこで「こんなことになって」は come to that と訳されている。

第二章　「共同作業」かどうか

0．はじめに

筆者は、塩濵（2013）第十章において、

1．「私たち」が同じ場所に一緒にいて、共同作業にかかわっている場合、英訳は we になる。
2．「私たち」が同じ場所にいても、共同作業にかかわっていない場合、英訳は、たとえば he and I などになる。

と、「共同作業」をキーワードにして、指摘した。本章は、その続編である。

1．共同作業とは

村上春樹『1Q84』に次のような箇所がある。問題は最後の三行であるのでその部分だけ英訳を付す。（中略部は料理名である）

(1)　それから二人はメニューを仔細に眺めた。あゆみは腕きき弁護士が重要な契約書を読むときのような鋭い目つきで、メニューに書かれている内容を隅々まで二回ずつ読んだ。何か大事なことを見落としていないか、どこかに隠された巧妙な抜け穴があるのではないか。そこに書かれている様々な条件や条項を頭の中で検討し、それのもたらす結果について熟考した。利益と損失を細かくはかりにかけた。青豆はそんな彼女の様子を向かいの席から興味深く見守っていた。
「決まった？」と青豆は尋ねた。
「おおむね」とあゆみは言った。（中略）
「注文が決まったらメニューは閉じた方がいい」と青豆は言った。「そうしないとウェイターは永遠にやってこないから」
「たしかに」と言ってあゆみは名残惜しそうにメニューを閉じて、テーブルの上に戻した。
“If we’re through choosing, we’d better close the menus,” Aomame said. “Otherwise the waiter will never come.”
“True,” Ayumi said, closing her menu with apparent regret and setting it on the table.

「注文が決まったらメニューは閉じた方がいい」は、筆者の感覚では、青豆のあゆみに対するアドバイスのように思える。しかし、この文は If we’re through choosing, we’d better close the menus と主語が we で英訳されている。これは、青豆もあゆみと並行して同じことをしているので、「メニューを閉じる」は「二人で行う動作」、「共同作業」と捉えられて we で訳されていると考えられる。続く、「名残惜しそうにメニューを閉じ」は closing her menu with apparent regret と、あゆみの動作として訳されているが、「名残惜しそうにメニューを閉じた」はあゆみ

だけの様子だからである。

以下は類例である。

⑵　天吾が彼女に電話をかけるときは、三度ベルを鳴らしてからいったん切り、またすぐにかけなおすという方法をとっていたが、その取り決めはなかなか守られなかった。最初のベルでふかえりが受話器を取ることの方が多かった。
「決められたとおりにしないとだめだよ」と天吾はそのたびに注意した。
“We have to follow our plan,” Tengo cautioned her each time this happened.

この場合も、「決められたとおりにしないとだめだよ」は天吾のふかえりに対するアドバイスに思えるが「三度ベルを鳴らして…」という取り決めは「天吾とふかえり」両者に関する共同作業なので、英訳では、取り決めに従うのは we となっている。

⑶　「そのとおりです。前にお目にかかってから、今日でちょうど三週間になります」(12)
“Correct. It has been exactly three weeks since we last met.”

原文の「お目にかかって」は、表されていないが、「私」が主語で「あなたに」が目的語と考えられるが、「二人が会う」ので、英訳は we last met となっている。

つまり、二人の人が対等に同時に行う動作の場合、日本語では「ある人が別の人に対して行っているように表現されている動作」が、英語では共同作業として捉えられ、上例のように we を用いて訳されている、ということである。

２.「～と一緒に」と with

「～と一緒に」と原文にあれば、日本語話者がそれを英訳する場合、with が用いられると考えるのが普通である。しかし、以下に見るように、with で訳されていない場合（２－１）と、with で訳されている場合（２－２）がある。その違いを「共同作業」をキーワードにして考えるのが本項の目的である。

（２－１）　「～と一緒に」が with で訳されていない場合

原文において「～と一緒に」となっているが、with～で英訳されていない例を考える。また、（２－２）で詳しく扱うが、便宜上、比較例として with～で英訳されている例を付記する場合がある。例に続くイタリック体の部分は、それぞれの例に対するコメントである。

(1) 僕と一緒に下校するときでも、「歩くのが遅くて御免なさい」というようなことは決して口にはしなかったし、顔にも出さなかった。『国境の南』

Whenever we walked home from school together, she never once apologized for holding me back or let this thought graze her expression.

「僕と一緒に下校する」がwe walked home とwe を主語にして訳されている。「二人の人が対等に同時に」下校しているので、「共同作業」になっているからである。

(2) 彼女はカセット・テープのケースに手を伸ばして、そのいくつかを手にとって眺めていた。その中には娘たちと一緒に歌うための子供の歌のカセットもあった。『国境の南』

Shimamoto reached over to the cassette case and pulled out a couple of tapes. One of them contained the children's songs my daughters and I sang together in the car.

「娘たちと一緒に歌う」は親子対等な共同作業なのでmy daughters and I sang together と訳されている。

（比較例）

週末には箱根に行って、娘たちと一緒に富士屋ホテルのプールで泳いで食事をした。

On weekends I'd go to Hakone, swim in the Fujiya Hotel pool with my kids, and we'd all have dinner together.

「娘たちと一緒に」がwith my kids と訳されている。これは、上例(5)の「歌う」と異なり、「箱根に行って～」は親が子供を引率しているので、親子対等な共同作業ではないからであると考えられる。

(3) 長男は酒をほとんど飲まなかったので、彼はときどき僕と一緒に酒を飲むことがあった。『国境の南』

His son hardly touched liquor, so sometimes the two of us would drink together. "

「僕と一緒に」がthe two of us と訳されている。

（比較例）

「お父さんはただ誰かと一緒に酒が飲みたかっただけさ。ずいぶん酔ってたみたいだけど、これから会社に帰ってちゃんと仕事ができるのかな、あれで」『国境の南』

"Your father just wanted to have someone to drink with. He ended up pretty drunk. I wonder that he can go back to work in that condition

「誰かと一緒に」がhave someone to drink with と訳されている。この場合「飲みたかった」のは「お父さん」だけであるので、共同作業ではない。

⑷　二年前、君と一緒に例のホテルのプールに行ったときに、初めて話しらしい話しをしたくらいだ。『アフターダーク』

That time we all went to the hotel pool together was the first time I ever really talked to her.

この場合の「一緒に行った」は物語の上では四人組の共同作業である。

⑸　まっすぐ南半球に送り込んで、カンガルーやらワラビーと一緒に、死の灰をたっぷりとあびせかけてやる。

I'm going to send him straight to the Southern Hemisphere and let the ashes of death rain all over him and the kangaroos and the wallabies.

「死の灰を浴びる」のは、人間も動物も対等の、ある意味で共同作業である。

⑹　天吾はその骨壺を所在なく抱えたまま、安達クミと一緒にタクシーで駅に向かった。

So he clutched the vase in his hands as he and Kumi took a taxi to the station.

「安達クミと一緒に」が he and Kumi と訳されている。

次例⑺の「みんなと一緒に？」は共同作業である。そこで、その共同作業の一員ということで You were part of a group that did it? と訳されている。

⑺　「君はいじめられたことはある？」と天吾は尋ねた。

「ない」と彼女ははっきり言った。そのあとに躊躇のようなものがあった。「いじめたことならあるけど」

「みんなと一緒に？」

"Were you ever bullied?" Tengo asked.

"Never," she declared, but then she seemed to hesitate. "I did do some bullying, though."

"You were part of a group that did it?"

（２－２）　「と一緒に」が with で訳されている場合。

（２－１）でも「比較例」として既にいくつか類例を挙げたが、次例⑴の場合、「彼女と一緒にいると」が with her と訳されている。「寛いだ気持ちになる」のは「僕」だけで、共同作業ではないからである。⑵は類例で「落ち着けなかった」のは天吾だけである。

⑴　僕と彼女とは高校二年生のときに同じクラスになって、何度かデートした。最初はダブル・デートで、次は二人だけのデートだった。彼女と一緒にいると僕は不思議に寛いだ気持ちになれた。『国境の南』

She and I were in the same class in junior year of high school and went out on dates often. At first double dates, then just the two of us. For whatever reason, I always felt relaxed with her.

⑵　大学に入ったばかりの元気な女の子たちと一緒にいると、天吾は今ひとつ落ち着けなかった。
Tengo could not quite relax when he was with energetic young college girls.

次例⑶の場合、「一緒にいるのが好き」なのは「僕」だけである。⑷は類例である。

⑶　僕は彼女と一緒にいるのが好きだったし、彼女と寝るのが好きだった。『国境の南』
I loved to be with her, and I loved to sleep with her.

⑷　僕は彼女と一緒にいても、他の女の子といるときのようにそわそわと落ちつかない気持ちにはならなかった。僕は彼女と一緒に家まで歩いて帰るのが好きだった。『国境の南』
Unlike times when I was with other girls, I could relax with Shimamoto. I loved walking home with her. Her left leg limped slightly as she walked.

以下、「共同作業」ではない例を列挙する。

⑸　「それでもあなたは本当に私と一緒になりたいの？」『国境の南』
“And you still want to be with me?”
「なりたい」のは「あなた」である。

⑹　「向こうではそんなに時間はかからないと思う」と彼女は言った。「ハジメくんは本当にその時間を作ることができるの？　私と一緒に飛行機でそこに行って帰ってくるだけの時間か」『国境の南』
“I don’t think it’ll take too long,” she said. “Can you really spare the time? The time to fly over there and back with me?”
「一緒に行く時間があるかどうか」は「ハジメ」の問題である。

⑺　僕は時間をあけて、彼女と一緒に上野のコンサート・ホールまで行った。『国境の南』
I cleared my schedule and went with her to the concert hall at Ueno Park.
「時間をあけて一緒に行く」のは「僕」である。

(8) それから彼女はまたじっと僕の横顔を見た。「ハジメくん」と彼女は少しあとで言った。「あなたが運転しているのをこうして横で見ていると、私ときどき手を伸ばしてそのハンドルを思い切りぐっと回してみたくなるの。そんなことをしたら死んじゃうでしょうね」
「まあ確実に死ぬだろうね。130キロは出ているからね」
「私と一緒にここで死ぬのは嫌？」『国境の南』
Again she turned to gaze at me. “Hajime,” she said after a while. “When I look at you driving, sometimes I want to grab the steering wheel and give it a yank. It’d kill us, wouldn’t it.”
“We’d die, all right. We’re going eighty miles an hour.”
“You’d rather not die with me?”
「一緒に死ぬのが嫌」かどうかは「ハジメくん」の問題である。

(9) 彼女はそのことで懲罰を受ける。古い土蔵に死んだ山羊と一緒に入れられる。その十日間、少女は完全に隔離され、外に出ることは許されない。
As her punishment, the girl was put in total isolation for ten days, locked in an old storehouse with the goat’s corpse.
「懲罰として土蔵に入れられるのは彼女だけ」である。

(10) あなたが僕を育てたのは、僕と一緒にいれば、いつか彼女が自分のもとに戻ってくるという計算があったからかもしれない。
Maybe you decided to raise me because you figured she would come back to you if you had me with you.
「あなた（父親）」が「（母親が）いつか彼女が自分のもとに戻ってくる」と考えて「一緒にいた」ので共同作業ではない。

(11) 彼はその音楽を聴きながら、ワードプロセッサーの画面に向かって文字を打ち込んでいった。朝の早い時刻にヤナーチェックの『シンフォニエッタ』を聴くことは、日々の習慣のひとつになっていた。高校生のときに即席の打楽器奏者としてその曲を演奏して以来、それは天吾にとっての特別な意味を持つ音楽になっていた。その音楽はいつも彼を個人的に励まし、護ってくれた。少なくとも天吾はそのように感じていた。
年上のガールフレンドと一緒にヤナーチェックの『シンフォニエッタ』を聴くこともあった。
He sometimes listened to Janáček’s Sinfonietta with his older girlfriend.
「ガールフレンドと一緒に聴く」だけであれば「共同作業」であるが、この文脈では、「聴く」状況がまず設定されていて、それに追加する形で「ガールフレンドと一緒に聴く」と

あるので、with his older girlfriend と訳されていると考える。

次例⑿の場合、with ではなく、join が用いられているが、同様と考えられる。高校生の「僕」は東京の大学に進学する予定だが、それまで付き合っていた「彼女」が、東京の大学に行くことはできない、という文脈での文であり、共同作業ではない。

⑿　でも彼女が僕と一緒に東京に行ける見込みはまずなかった。『国境の南』
But there was no way Izumi would be joining me in Tokyo.

第三章　原文の受動態が英訳で能動態に

はじめに

本章では、原文が「される」などと受動態になっているが、英訳で能動態になっている場合を検討する。その際、三人称小説の「地の文」で、語り手の発言になっている場合（１．１）と、登場人物の「せりふ」になっている場合（１．２）の二つに分けて考察する。該当部分だけ英訳を添える場合がある。２．ではそれに準ずる問題を扱う。

１．１　地の文の場合

例⑴の場合、原文で「事情聴取された」と受動態になっているのは、視点が「幹部」にあるからである。しかし、地の文であるということは、これは、語り手の文である。そして「事情聴取された」は英訳では、「山梨県警」を主語とする能動態で訳されている。

⑴　数日後、その声明にこたえるかのように、山梨県警が捜査令状を手に教団内に入り、一日かけて広い敷地をまわり、施設内部や各種書類を入念に調査した。何人かの幹部が事情聴取された。(477)
They also questioned several members of the group’s leadership.

以下、原文が語り手の文で、登場人物の視点からの受動態が、英訳において能動態になっている文を列挙する。

⑵　多崎つくるがそれほど強く死に引き寄せられるようになったきっかけははっきりしている。『色彩』
The reason why death had such a hold on Tsukuru Tazaki was clear.

「多崎つくる」の視点で「引き寄せられ」と受動態になっているが、英訳では death を主語と

する能動態になっている。

(3) ハンサムな金髪のボーイに案内され、クラシックなエレベーターに揺られて、四階にある部屋に入った。『色彩』

A handsome blond bellboy escorted him via an antique elevator to his room on the fourth floor.

「多崎つくる」の視点で「案内され」と受動態になっているが、英訳は bellboy を主語とする能動態になっている。

(4) 名刺を渡すと相手はそれをしばし凝視した。まるで出し抜けに不幸の手紙でも渡されたみたいに。

People would stare at the card as if she had thrust a letter at them bearing bad news.

「渡された」が相手の視点での受動態なので、英訳は she を主語とすると能動態になっている。

(5) 電話口で名前を告げると、くすくす笑われることもあった。

When she announced her name on the telephone, she would often hear suppressed laughter.

「くすくす笑われる」は青豆の視点からの受動態なので、英訳は she を主語とすると能動態になっている。

(6) ヤナーチェックが個人的にどのような人物だったのか、青豆は知らない。いずれにせよおそらく彼は、自分の作曲した音楽が一九八四年の東京の、ひどく渋滞した首都高速道路上の、トヨタ・クラウン・ロイヤルサルーンのひっそりとした車内で、誰かに聴かれることになろうとは想像もしなかったに違いない。

She knew nothing about Janáček as a person, but she was quite sure that he never imagined that in 1984 someone would be listening to his composition in a hushed Toyota Crown Royal Saloon on the gridlocked elevated Metropolitan Expressway in Tokyo.

「誰かに聴かれる」はヤナーチェックの視点からの受動態であるので someone を主語とする能動態で訳されている。

(7) 青豆が庭を横切ったところで、門扉が開けられた。

The gate opened as she reached the other side of the garden.

「開けられた」は青豆の視点からの受動態であるので、英訳は The gate opened と能動態になっている。

⑻　竹刀を持っていれば簡単には刺されなかったのだろうが、普通の人間は竹刀を片手にNHKの集金人と話をしたりはしない。

Had he been holding a bamboo practice sword at the time, the collector would not have been able to stab him so easily, but ordinary people do not hold bamboo swords in hand when they talk to NHK fee collectors.

「刺された」は登場人物の視点からの受動態であるので、英訳は the collector を主語とする能動態になっている。

１．２　登場人物の「セリフ」の場合。

村上春樹『色彩を持たない多崎つくると、彼の巡礼の年』に次のような箇所がある。下はその英訳である。⑴～⑶はすべて登場人物「ユズ」の親友（だった）「エリ」の発言（せりふ）である。

⑴　私がこの国に骨を埋めてもいいと心を決めたのは、ユズが誰かに殺されたという知らせを聞いたときだった。『色彩』

It was when I heard that Yuzu had been murdered by somebody that I decided I could stay here the rest of my life.

「ユズが誰かに殺された」が Yuzu had been murdered by somebody と訳されている。原文の「ユズ」を主語とする受動態が英訳においても Yuzu を主語とする受動態で訳されている。

次例⑵も同様である。

⑵　そして付け加えれば、ユズがレイプされたというのは嘘じゃなかった。『色彩』

You should know, though, that Yuzu actually *had* been raped.

しかし、次例⑶参照。

⑶　でもユズが自分の意思に反して、おそらくは力尽くで、誰かと性的な関係を持たされたことは確かだよ。『色彩』

But someone had forced her to have sex against her will.

「自分の意思に反して、おそらくは力尽くで、誰かと性的な関係を持たされた」が someone had forced her to have sex against her will と someone が主語の能動態で訳されている。

⑴⑵が、過去の事実を「エリ」の視点で客観的に述べているのに対して、⑶の場合「自分の意思に反して、おそらくは力尽くで」とあるように、「性的関係を持たされた」は「エリ」が「ユズ」の視点で、「エリ」の考えを述べている発言で、「ユズが～持たされた」という「ユズ」を主語とする受動態である。しかし、英訳は someone を主語とする能動態になっている。

このような場合、つまり、小説中の発言者ではなく、発言に登場する人物の視点での受動態は、英訳においては受動態にはならない、というのが本項章の主題である。

次例⑷も発言者は「エリ」であるが、英訳に Yuzu insisted（ユズは主張した）とあるように「処女を奪われた」はユズの視点での受動態である。この場合英訳は you stole her virginity と能動態になっている。

⑷　東京の君のうちで、君に無理やりに処女を奪われたんだって。それがあの子にとっての真実の最終的なヴァージョンになった。『色彩』

At any rate, Yuzu insisted to the bitter end that you stole her virginity at your place in Tokyo. For her, this was the definitive version of the truth, and she never wavered.

次例⑸の発言者は青豆である。原文「　」内は発言者自身による過去の事実に関する受動態なので、これだけであれば、英訳も受動態になるはずであるが、英訳は you を主語とする能動態になっている。

⑸　「つまり二年前から、回転式の拳銃は日本の警察でまったく使われていない。そういうこと？」と青豆は男の発言を遮ってバーテンダーに尋ねた。

Aomame cut the man off and asked, “You’re telling me that Japanese police haven’t used revolvers at all for two years now?”

これは、英訳の引用符内が You’re telling me で始まっていて、この段階で発言者が You になっているので、続く「使われていない」という受動態は「回転式の拳銃」視点になるので Japanese police haven’t used と能動態で英訳されている。

⑹　東条英機は終戦のあと、アメリカ軍に逮捕されそうになったときに、心臓を撃つつもりで拳銃の銃口をあてて引き金を引いたが、弾丸が逸れて腹にあたり、死ねなかった。

Look what happened to General Tojo after the war. When the American military came to arrest him, he tried to shoot himself in the heart by pressing the muzzle against his chest and pulling the trigger, but the bullet missed and hit his stomach without killing him.

発言者はタマルで、「アメリカ軍に逮捕されそうになった」の視点は「東条英機」である。

そこで、the American military came to arrest him とアメリカ軍を主語とする能動態で訳されている。

(7) 実際の話、売春とか痴漢行為とかで警察にひっぱられるやつには、宗教関係者と教育関係者がずいぶんと多いんだから。(522)

In fact, we arrest a lot of people connected with religion—and with education—for stuff like prostitution and groping women on commuter trains.

発言者はあゆみ（婦人警官）で、「警察にひっぱられる」の視点は「宗教関係者と教育関係者」である。そこで英訳は警察を主語とする能動態になっている。

2．原文と英訳で主語が異なっている場合。（態に関連して）

次の(1)(2)は、原文の「肝を潰した」「びっくりした」はいわゆる「受動態」の形式ではないが、通例の英文和訳ではこのような表現は be surprised のような「受動態」を用いて英訳されるのが通例である。

しかし、それぞれの英訳において受動態は用いられていない。

(1) それを目にした相手は、そのすさまじい変容ぶりに肝を潰した。それは大いなる無名性から息を呑む深淵への、驚くべき跳躍だった。だから彼女は知らない人の前では、決して顔をしかめないように心がけていた。（1－26）

The shocking transformation terrified anyone who saw it, so she was careful never to frown in the presence of a stranger.

発言者は語り手で、「肝を潰した」の主語は「相手」という「人」であるが、英訳では The shocking transformation が主語の能動態になっている。

(2) 背中合わせの席で勉強をしていた高校生が、その音にびっくりして青豆の方を振り向いたが、もちろん何も言わなかった。(192)

The sound startled the high school student studying at the table behind her, his back to hers, and he spun around to look at her. But he said nothing.

発言者は語り手で、「その音にびっくりして」は「高校生」が主語であるが、英訳の主語は the sound で The sound startled the high school student となっている。

例(3)は、この部分だけを見ると、一人称の文に思えるが、英訳は her とあるように、地の文（語り手の発言）で、三人称の文である。視点は青豆で「（青豆が）持たなくてはならなかった」とあるが、英訳は Employers required her（雇用者が彼女に要求した）となっている。

(3) 会社に勤めているときには名刺を持たなくてはならなかったので、そのぶん煩わしいことが多かった。

Employers required her to have business cards printed, which only made things worse.

(4) しかしマザとドウタという言葉を耳にした時から、天吾には彼女の誘いを断ることができなくなった。

But once Kumi mentioned the words maza and dohta, Tengo couldn't turn down her invitation.

語り手の発言で、「耳にした」の視点は天吾であるが、英訳は Kumi mentioned the words とクミが主語の能動態になっている。

引用文献　末尾の『』内は本稿で用いた略称である。

村上春樹『1Q84』（新潮社）2009
『アフターダーク』（講談社）2004
『国境の南、太陽の西』（講談社）1995『国境の南』
『ねじまき鳥クロニクル』（新潮社）1994～95『ねじまき鳥』
『スプートニクの恋人』（講談社）1999『スプートニク』
『ノルウェイの森』（講談社）1987『ノルウェイ』
『海辺のカフカ』（新潮社）2002
『象の消滅』（新潮社）2005
『色彩を持たない多崎つくると、彼の巡礼の年』（文藝春秋）2013『色彩』

Haruki Murakami: 1Q84（Vintage）2011
: After Dark（Harvill）2008
: Wind-up Bird Chronicle（Harvill）1997
: Sputnik Sweetheart（Harvill）2001
: A Wild Sheep Chase（Harvill）1989
: South of the Border, West of the Sun（Harvill）1999
: Norwegian Wood（Vintage）2000
: Kafka on the Shore（Knopf）2005
: The Elephant Vanishes（Vintage）1994
: Colorless Tsukuru Tazaki and His Years of Pilgrimage（Knopf）2014

参考文献

塩濵久雄、なぜこう訳されているのか（１）『神戸山手大学紀要 14号』（pp139-149）2012
塩濵久雄、なぜこう訳されているのか（２）『神戸山手大学紀要 15号』（pp107-145）2013
『月刊英語教育』Apr.2014（大修館）